

日本イースト・ウエストセンター同友会

The Japan EWC Association

ニュースレター 第18号

ご挨拶

J E W C A 会長 梅田 純一

このたび、渡辺晴子会長と会員皆様のご推挙により日本イースト・ウエストセンター同友会 (Japan East-West Center Association) の会長をお受けすることになりました。

前任者の方々と比べると力不足は免れませんが、皆様のお役に立つことができますよう、全力を尽くして勤めますので、ご忠告、ご支援のほどをお願い申し上げます。

私が East-West Center と出会ったのはもう20年近く前の1982年になります。アジア各国の中堅記者と米国の記者が6ヶ月生活を共にして、それぞれの地域の理解を深めようというジェファーソン・フェロースhipに参加したことでした。

この年はアジアからは私を含めて6人が選ばれました。ほかの5ヶ国はインド(ビジネス・スタンダード)、中国(新華社通信)、シンガポール(ビジネス・タイムズ)、ネパール(ネパール国営通信)、パプア・ニューギニア(ポートモレスビー・タイムズ)でした。米国からはジャーナル・オブ・コマース、パシフィック・ビジネス・タイムズなどのバラエティーに富んだ記者達でした。

私のテーマは「日米半導体“戦争”」でシリコ



左より渡辺前会長、アワヤEWC・Alumni Officer、梅田新会長

ン・バレー、ワシントン、ニューヨークなどを1ヶ月かけて取材しました。米国人グループは中国を取材して興奮して帰国レポートを行ったことをいまだに鮮明に思い出します。

このプログラムの仲間のうち数人とは今でもコンタクトをとっていますが、そのうちひとりは何年後に東京で一緒に仕事をする事になりました。彼は現在、ブルンバーグのアジア地区編集長として東京に駐在しています。

East-West Center の意義はこうしたヒューマン・ネットワークを作り上げるきっかけを作ることにあるのではないのでしょうか。会員の皆様も、それぞれのネットワークをお持ちのことと思います。

私の場合、残念なことと同じ時期に EWC に

在籍したひとほとんど連絡をとれていない状態です。いつでも会えると思っているうちに月日が経ってしまっていて、いつのまにか再会する機会を逸してしまったひとが何人もいます。同じ様な経験をお持ちの会員の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この同友会がリユニオンの場を提供することができればいいな、と考えております。

同友会短信(1997.10-1999.1)

1997年度総会沖縄で開催

1997年度のEWCA総会は、沖縄同窓会の全面的な協力の下、10月10日「かりゆしアーバンリゾート那覇」にて開催されました。後日、出席者のひとり小林英治会員から、つぎのようなメッセージが寄せられました。

このたびの総会では、本部事務局および沖縄同友会の皆様に大変お世話になりました。EWCからのゲストを迎え、有意義な楽しい総会でした。那覇市恒例の大綱挽きを見る機会にも恵まれ、ギネスブックに記載されている直径1メートル半、長さ170メートル、総重量26トンという大綱を一万人以上の人が引く光景はまさに圧巻でした。綱引きが終わってから切り取ってもらった綱の一部を持ち帰り、部屋に飾りました。幸福がもたらされるということです。

私にとって初めての沖縄訪問でしたが、かつてのクラスメイトに会う機会に恵まれました。仲地さん、照屋さん、崎原さん、平良さん、大城(旧姓赤嶺)さんなど、かつての若さが若干衰えたとはいえ、マノア・キャンパス時代とあまり変わっておらず、本当に懐かしく思いました。沖縄に行ってよかったと思っております。それ

最後になりましたが、会の更なる発展のために、会員の皆様のご支援とアドバイスを心からお願いいたします。

(うめだ じゅんいち:1982 Jefferson Fellow, East-West Center Communication Institute. 現職:日本経済新聞社ニッケイ・ウイークリー編集部勤務)

にしても沖縄同友会の皆様が、教育界をはじめ官界、財界の各分野において、EWCスピリットを存分に発揮して活躍されている様子に感銘を受けました。

戦争の傷跡、米軍基地などを初めて目にして、沖縄の問題を身近に感じた次第です。沖縄の現実は行ってみないことにはわかりません。今回県外からの参加者がやや少なかったことは残念でした。次回の総会には是非多数の参加を。沖縄のことわざ「アシビヌチュラサヤ、ニンジュヌ、スナワイ」(The more participants there are, the more enjoyable a gathering becomes)とあります。本当にありがとうございました。

小林英治

EWC アルムナイ・オフィサー来日

新たにアルムナイ・オフィサーに任命されたゲール・アワヤ(Gale E.S. Awaya)さんが、1997年12月来日し、同友会メンバーと懇談した。東京では12月3日渡辺晴子前会長、梅田純一現会長が会い、日本の同友会の活動に関して詳しく説明した。また、短い日程にもかかわらず、アワヤさんは関西まで足を伸ばし12月5

日にはラウチ関西支部長などと懇談した。

平成9年度幹事会兼リユニオン開かれる

平成9年度の総会は、10月に沖縄で開催されたため、年度予算の承認は年末の幹事会にて行うことになった。今回は、恒例の10年・20年・30年の節目に行うリユニオンを兼ねて、1997年12月6日外国記者クラブにて盛大に催された。

留学より30年目を迎える67年組は、年度幹事の松岡弘氏を中心に密接な連絡を取り合っており、多くの会員が参加することができ、思い出話に花が咲いた。

また、1997年度の決算(別記)も無事承認された。

会の最後には渡辺会長より、梅田純一氏を次期会長に推薦する旨報告があり、満場一致で承認された。梅田氏の任期は1999年12月までとなる。

ジェファソン・フェロー来日

1998年4月下旬、EWCのジェファソン・フェロー数名がメディア・プログラム・ディレクターのウェブスター・K・ノーラン(Webster K. Nolan)に引率されて来日した。メンバーは米国の新聞、テレビ、ラジオで活躍する中堅の記者。

広島、関西を訪れた後、東京で外務省、通産省などで精力的な取材をした。日本の後、それぞれのテーマごとに、中国、インドネシアなどに旅立って行った。

東京滞在中の4月22日、有楽町の外国特派員協会のレストランに一行を招き懇談した。1982年のジェファソン・フェローであった梅田純一とポール・アデイソン(ブルーンバーグ・

ニュース社アジア編集長、東京駐在)のほか、外国メディアの東京特派員数名(Jeffrey Bartholet, Tokyo bureau chief of Newsweek; Michael Zillenger, Tokyo bureau chief of San Jose Mercury Newsなど)が歓迎した。

来日した1998年ジェファソン・フェローは、Steve Scher, public affairs director/ host, weekday of KUOW Public Radio in Seattle, Wash.; Michael Taylor, news editor of Congressional Quarterly in Washington, D.C.; Alex Tizon, staff writer of The Seattle Times in Seattle, Wash.; Elizabeth Van Dyke, assistant editor of CNN in Atlanta, Ga.; Claudia M. Chang, international assignment editor of CNN in Atlanta, Ga.

食事のあと、東京駅前の郵船ビルにあるブルーンバーグ・ニュース社を見学した。

EWC主催の会議、米子で開催

EWCが主催者に名を連ねる「第8回北東アジア経済フォーラム米子会議」が7月28日から三日間、鳥取県米子市で開かれた。

EWC上級客員研究員のスタンリー・カッツ(Stanley Katz)氏が「北東アジア開発銀行の顧問ワーキング・グループ」に関する報告を行った。また、EWC副総裁の趙利済(Lee-Jay Cho)氏も議長として開会スピーチをした。

この会議は東京のメディアでは注目を集めなかったが、「ニッケイ・ウイークリー」は記者を派遣して8月3日付けで詳しく報じた。

EWCAリージョナル・ミーティングがマニラにて開催される

EWCAがアジア地域を対象にしたリージョナル・ミーティングが1999年1月28-29日フィリ

ン・マニラのエドサ・シャングリラ・ホテルで開かれた。今回は“Asia and the Pacific in the New Millenium: Challenges, Opportunities and Responses”と題したテーマを中心にアジア各地から約 100 名の会員が出席した。日本からは、沖縄在住の会員を中心に 10 名ほどの参加者があった。

また、これに先立つ 1 月 27 日 EWCA の支部役員を集めてチャプター・リーダー会議が開催された。日本からは山里清 EWCA 理事、梅田純一同友会会長、ジョージ・ラウチ関西支部長、安谷屋健助沖縄同窓会事務局長が出席した。

会議では、各支部の活動報告のあと、募金活動などの問題について活発な議論が行われた。また、EWC の ALUMNI OFFICE と各支部は電子メールを最大限活用し、連絡を緊密にすることが確認された。2000 年にハワイで開く予定のリージョナル・ミーティングをいかに盛り上げてゆくかという点についても話し合いが行われた。

会費改定について

以前より、会費改定の問題が幹事会などで取り上げられておりましたが、最近ではワープロなどの普及でニューズレター・名簿などの印刷経費が安くなったことを踏まえ、1997 年 9 月の幹事会にて会費を 3,000 円とすることと決定いたしました。また、1997-98 年度は 5,000 円のままですすでに徴収しておりますので、1998-1999 年度の徴収は中止し、あらためて 1999-2000 年度に 3,000 円の請求をさせていただく予定です。会計につきましては、変則的ですが 2 年度分合わせて報告・監査とさせていただきます。

総会の延期について

今年度の総会は、東京以外の場所にて 12 月に行う予定にしておりましたが、諸般の事情で開催できなくなりました。不手際の段、事務局より深くお詫び申し上げます。

1999 年度は関西支部が総会を行う年にあたっており、目下、同友会・関西支部合同で開催ことを検討しております。次号ニューズレターで詳細をお伝えする予定です。

編集後記

前回のニューズレター発行より、2 年近くが過ぎてしまいました。この間、会員の皆さまへの連絡ができず、大変申し訳なく思います。今回は、前回のニューズレター以降の活動状況をまとめてお伝えいたしました。

昨年、久しぶりにハワイへ行き EWC を訪ねましたが、ずいぶん人の出入りがあり、顔ぶれが変わったのにびっくりしました。財政問題は、ようやく小康状態と聞きましたが、のんびりしているわけにはいかないようです。

ところで、ハワイの同窓会事務局では、電子メールを利用した EWC の情報提供“Coming Up at EWC”をスタートしました。ご関心のある方は、alumni@ewc.hawaii.eduへお問い合わせください。

ニューズレター 第 18 号
編集発行 日本イ・ストゥリストセンタ-同友会
発行者 梅田 純一
編集者 浜野 潔
621-8555 京都府亀岡市曾我部町南条
京都学園大学経済学部 浜野研究室内
TEL. 0771-29-2301 (研究室直通)
FAX 0771-29-2389